

第5回各務原市総合計画審議会 議事録

日時	令和元年6月7日（金） 10:00～11:00	
場所	本庁4階 第2委員会室	
出席者	審議会委員	会 長 柳原 幸一 （各務原商工会議所会頭） 委 員 板谷 和宏 （各務原警察署署長） 小鍋 泰弘 （各務原市副市長） 勝野 忠男 （各務原市シニアクラブ連合会会長） 北川 リツ （各務原市環境市民会議委員長） 木野 昇 （各務原市農業委員会委員長） 木村 徹之 （各務原市自治会連合会会長） 杉山 幹治 （各務原市子ども会育成協議会会長） 高木 朗義 （岐阜大学社会基盤工学科教授） 長縄 尚史 （かかみがはら暮らし委員会代表理事） 宮田 延子 （中部学院大学看護学科長） 森 勇 （各務原市民生・児童委員協議会会長） 横山 浩之 （各務原市体育協会会長）
	事務局	植田 恭史 （企画総務部長） 加藤 雅人 （企画総務部次長） 木村 重信 （企画総務部次長） 大矢 貢 （企画総務部次長） 堀 善子 （企画政策課長補佐） 鈴木 章弘 （企画政策課政策推進係長） 三輪 真也 （企画政策課政策推進係） 宇野 仁 （企画政策課政策推進係） 小林 俊彦 （企画政策課経営企画係） 中田 啓太 （企画政策課経営企画係）
欠席者	審議会委員	副会長 紙谷 清 （各務原市社会福祉協議会会長） 委 員 青木 文子 （各務原市教育委員会委員）
次第 1 議事 (1) 総合計画後期基本計画案の承認 (2) 軽微な修正等に関する事項 (3) 答申（案） 2 その他		
1 議事 (1) 総合計画後期基本計画案の承認 (2) 軽微な修正等に関する事項 〈一括して事務局より説明〉		

〈質疑意見〉

【D委員】

- ・世の中が大きく変わっていく中、行政や総合計画のあり方も変わってきているのではないか。そのキーワードとなる、つながりづくりや市民のあり方について盛り込まれた計画となっている。民間と行政とがリンクすることで今まで以上に大きな成果が出てくると考えており、そうした広がりにつながる計画となっているのではないか。

【B委員】

- ・総合計画の策定義務はなくなったが、各務原市はあえて策定するという選択をした。市民との契約書という位置づけかと思う。
- ・5年間の計画であるが、世の中の変化に応じて、計画や KPI を適宜見直していくという考え方も必要ではないか。
- ・KPI については、アウトプットのものが多くある。数値の達成だけを追うと、手段が目的化していくこととなるため注意が必要。
- ・職員がもっとまちに出ていく必要がある。市民側も、行政に要望するばかりでなく、一緒に取り組んでいくという考え方に変えていかなければならない。
- ・大学入試改革や学習指導要領の改訂など、国レベルで教育のあり方が変わってきている。子どもたちへの教育を中心に地域が団結して、よりよいまちになっていくと良い。

【F委員】

- ・改行やフォントなど、読みやすいような整理をお願いします。

【事務局】

- ・軽微な修正は事務局で見直していく。また、製本段階でデザインやレイアウト等を検討していく。

【会長】

- ・軽微な修正は事務局で行うとして、総合計画後期基本計画原案について承認するというところでよろしいか。

⇒拍手多数により承認

(3) 答申(案)

〈柳原会長より説明〉

〈質疑意見〉

【B委員】

- ・行政へ要望するのではなく、「行政と市民・民間とで一緒に進めていく」という表現の方が良いのではないかと。語尾を「～要望します」や「～してください」ではなく、「一緒に～していきましょう」などにしてはどうかと考える。

【会長】

- ・そのような趣旨で修正したい。
 - ・最終的な答申は会長に一任いただきたいと思います、よろしいか。
- ⇒拍手多数により承認

2 その他

【会長】

- ・これまでの審議会を振り返り、感想や市への期待など、一言ずつお願いしたい。

【C委員】

- ・中長期で考えていくべきことはたくさんあり、こうした計画は重要なものである。色々な分野が繋がっているということを改めて感じた審議会であった。市民と行政とで立場は違うが、一緒になって取り組んでいくという計画になっており、こうしたことは非常に重要である。

【A委員】

- ・シニアが住みやすいまちが良いまちだと思う。体と心の健康をつくっていくことが重要で、そのためには横のつながりで支え合っていくことが大切。今後、総合計画を念頭に置きながら活動に取り組んでいきたい。

【F委員】

- ・市民も行政も好きな事を活かし、喜びを感じながら取り組んでいけば、早く結果が出てくるのではないかと。

【E委員】

- ・農業について総合計画でしっかり位置づけられ、農業の意義、課題や対策についてしっかり書き込まれている。若い新規就農者も生まれており、今後もしっかりやっていきたい。

【G委員】

- ・近年、市役所が自治会に身近なものになってきた。エリア担当職員や自治会まちづくりミーティングなど、市との対話を進め、風通しもよくなってきている。これからは、後期計画に位置付けられた「つながりづくり」が鍵になってくる。
- ・縦割りでなく、横の連携をしっかりとって物事を進めていく必要がある。

【H委員】

- ・市民と行政とが一緒になって取り組んでいかないとやらされ感につながるため、一緒に取り組んでいくという雰囲気をつくっていきたい。また、様々な団体活動においては、団体の役員だけでなく、皆が同じ立場で取り組んでいくことが重要である。これは大人に限ったものではなく、将来を担う子どもたちをこうした方向に導いていければ、市の未来につながっていくのではないかな。

【B委員】

- ・計画は進捗管理を行っていくことが重要である。例えば、この審議会のメンバーが施策の進捗や KPI の変化、各団体がどのように協力していけるかを話し合うような、公式・非公式の場があってもよいのではないかな。

【D委員】

- ・総合計画には民間側が知っておくべきことが多く含まれている。民間が知っておくことで、民間同士で物事に取り組む際の接点が生まれる。
- ・民間側の総合計画のようなものが出来てくるといいのではないかな、と感じている。

【J委員】

- ・福祉分野などには様々な制度があるが、制度が当たらない人を救うのは家族や地域である。これは行政でなく地域でやらなければならないことである。後期計画は全体のカラーが「共助」になっており、良いものであると思う。絵に描いた餅とせず、しっかり実行していく必要がある。
- ・医療や介護の制度は変わっていく。計画を進めていく中で、しっかり取り組んでいっていただきたい。

【K委員】

- ・福祉分野で個人や地域と行政をつなぐ役割を担うのが民生委員であるが、担い手が不足しつつある。ぜひ、活動にご協力いただきたい。

【L委員】

- ・30代～50代は責任世代と呼ばれるが、権利は主張するが責任を果たさない人が増えてきていると感じる。責任世代にどう情報発信していくか、その情報をどう隅々まで浸透させるか、フィードバックをどのように得ていくか、どのように活かしていくかを考えていく必要がある。

【会長】

- ・平成から令和にかけての審議会だった。市民の方にたくさんの夢を与えられるように、しっかり計画を実行していきたいと考えている。皆様にもご協力をいただきたい。

【M委員】

- ・委員の皆様から多くのご意見をいただき、骨太な計画をつくることができた。
- ・5年先を見通すことも難しい時代であるが、様々な分野、様々な課題について多くのご示唆をいただいた。市としても、横串を入れて取り組んでいく。

【事務局】

- ・今後の日程として、6月13日(木)に会長から市長へ答申いただく。その後、7月上旬に、パブリックコメントを実施、9月議会に議案として上程する。議決を経て、総合計画の冊子として製本していく予定。